

平成 30 年度第 2 回神奈川県立横浜栄高等学校学校運営協議会（記録）

- 1 日 時：平成 30 年 11 月 16 日（金） 14 時 10 分～16 時 30 分 場所：応接室
- 2 出席者 （敬称略・順不同）
委 員：棚橋信明（委員長）・鈴木武士（副委員長）・松永賢次（委員）・大澤一郎（委員）
田村孝章（委員）・竹谷康生（委員）・内田久恵（委員）
菊池かをる（委員）、高橋浩二（委員）は欠席
事務局：西ヶ谷克彦（副校長）・小泉邦広（総括教諭）
- 3 協議会
 - (1) 校長あいさつ
 - (2) 授業観察・校内巡視（6 工事の授業を観察、校内施設の説明）
 - (3) 学校運営についての協議
 - ア 平成 30 年度前期の取組
 - ・夏季集中講座（英会話、プログラミング）実施、アントレプレナーシップ教育、キャリア教育、N I E 教育実践研究を含む授業改善、特別活動など前期の教育活動について説明
 - イ 平成 30 年度後期の取組
 - ・新学習指導要領に基づく教育課程の検討を本格化する。
 - ・平成 31 年実施する「総合的な探究の時間」についての検討を進める。
 - ・平成 30 年度の総括と並行し平成 31 年度年間指導計画を策定する。
- (質疑) 特になし
- (意見)
 - ・課題発見、課題解決の視点を盛り込んだ探求型の学習はこれからの時代に求められる力の育成に効果がある。こうした学習活動の拡充を望む。
 - ・大学で力を伸ばす学生は入学当初から目的意識が明確である。高校で生徒の将来に対する意識づけ、学習への動機づけを丁寧に行ってほしい。できなくても学習を続けるよう、生徒の興味を持続させることが求められている。
 - ・プログラミングはさまざまな分野で必要になるという視点をもって教育活動を進めてほしい。
 - ・生徒は予測できない将来について少なからず不安を抱いている。適切に支援していく必要がある。学校の方針を聞いて教育活動を確認することに意義はあると感じている。
 - ・学校教育への支援を考えている企業も多くある。活用してほしい。
 - ・プログラミングを活用した思考組み立ての学習などに取り組んでほしい。
 - ・高校教育を取り巻く社会の状況が大きく変わってきている。教育観の変化に合わせ指導内容、指導方法も変化せざるを得ない。努力の継続を期待する。
 - ・これからの社会で生きる人材の育成は大きな課題である。大学でも新たな時代に向けた教育を支えるための人材育成の必要性を再認識した。高校現場の教員の声を聴きながら進めていく必要を感じた。
 - ・I C T 環境の整備を進める必要があるので教育委員会へ要望する。
 - ・バスケットボール指導者が亡くなり活動にも影響が出ている。指導できる教員の補充が必要である。教育委員会へ要望する。
- (4) その他 次回会議は平成 31 年 3 月に開催する。学校評価を中心課題とする。